



2020.8.6

2020年度第1四半期 決算説明



Catalyzing the Unimagined

想像を超えた化学反応を。



東洋紡株式会社

目次

I . 2020年度第1四半期決算の概況

II . 2020年度業績見通し



I . 2020年度第1四半期 決算の概況

決算のポイント

第1四半期実績

- ◆ 新型コロナウイルス感染症拡大による、自動車関連や衣料繊維などへの影響が大きく、減収減益
- ◆ 売上高 755 億円（6.7%減）、営業利益 44 億円（16.7%減）
- ◆ 事業環境が厳しい中、フィルム事業は堅調持続

(億円)

	2019年度	2020年度	増減
	1Q	1Q	
売上高	808	755	▲6.7%
営業利益	52	44	▲16.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	17	18	+5.6%

決算概要 PL

(億円)

	2019年度	2020年度	増減	
	1Q	1Q	金額	率
売上高	808	755	▲ 54	▲ 6.7%
営業利益	52	44	▲ 9	▲ 16.7%
(率)	6.5%	5.8%	-	-
経常利益	43	28	▲ 16	▲ 36.3%
特別損益	▲ 17	▲ 4	+14	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	17	18	+1	+5.6%
EBITDA*	91	88	▲ 3	▲ 3.7%
EPS(円)	18.8	19.9	-	-
減価償却費	39	45	+5	+13.7%
設備投資	70	61	▲ 9	▲ 12.5%

為替レート (円/US\$)

110

108

国産ナフサ (千円/kl)

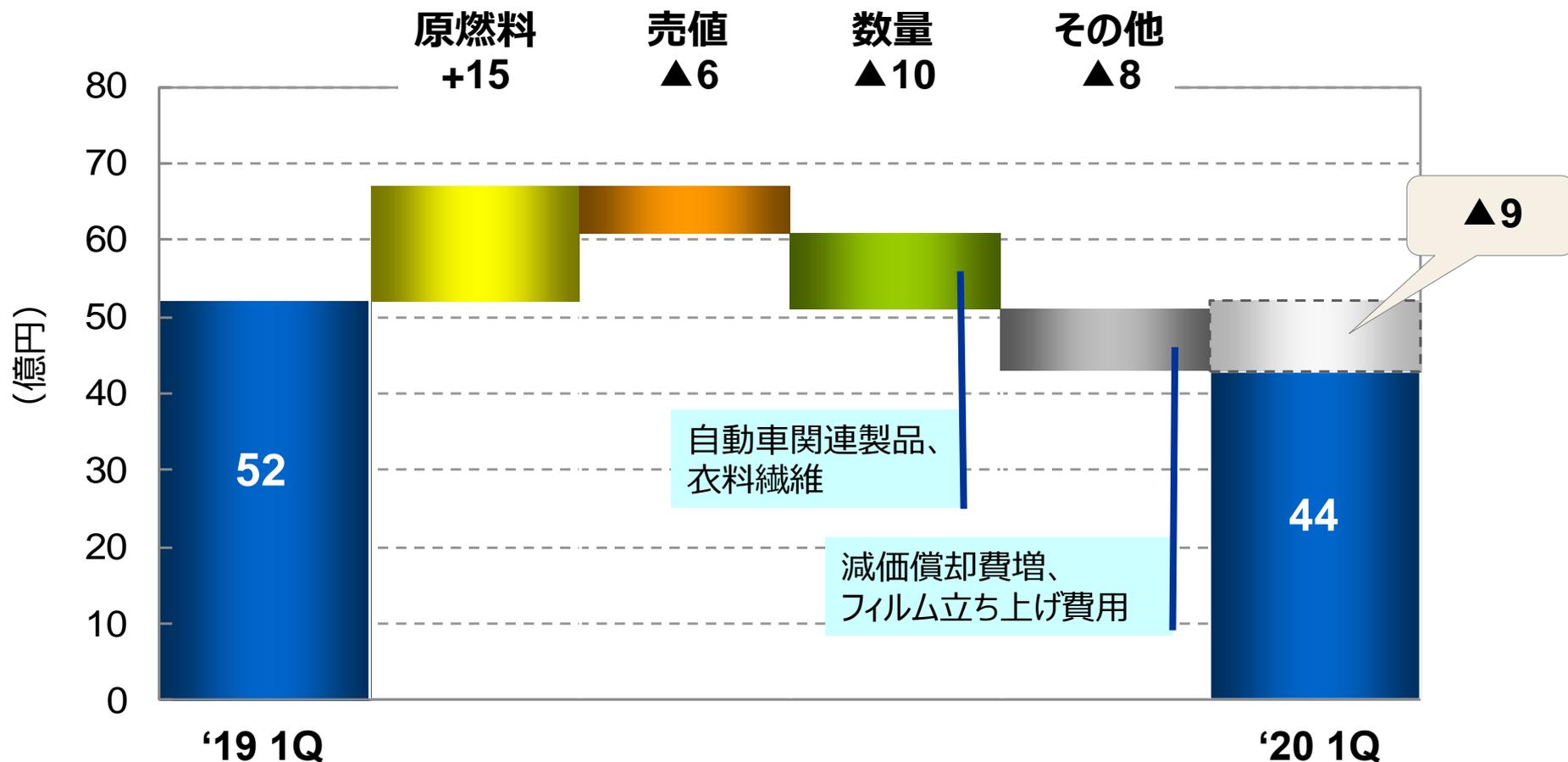
45

26

* 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む) 」にて算出

I. 2020年度第1四半期決算の概況

営業利益の増減要因



	2019年度 1Q	2020年度 1Q
為替レート (円/US\$)	110	108
国産ナフサ (千円/kl)	45	26

決算概要 BS

(億円)

	20/3末	20/6末	増減
総資産	4,889	4,929	+40
現預金	252	344	+92
たな卸資産	806	846	+39
固定資産	2,825	2,857	+33
純資産	1,826	1,820	▲ 6
自己資本	1,779	1,774	▲ 5
うち利益剰余金	619	602	▲ 18
非支配株主持分	47	46	▲ 1
有利子負債	1,751	1,927	+176
D/E レシオ	0.98	1.09	-
Net D/E レシオ*	0.84	0.89	-

* 「(有利子負債－現預金) ÷ 自己資本」にて算出

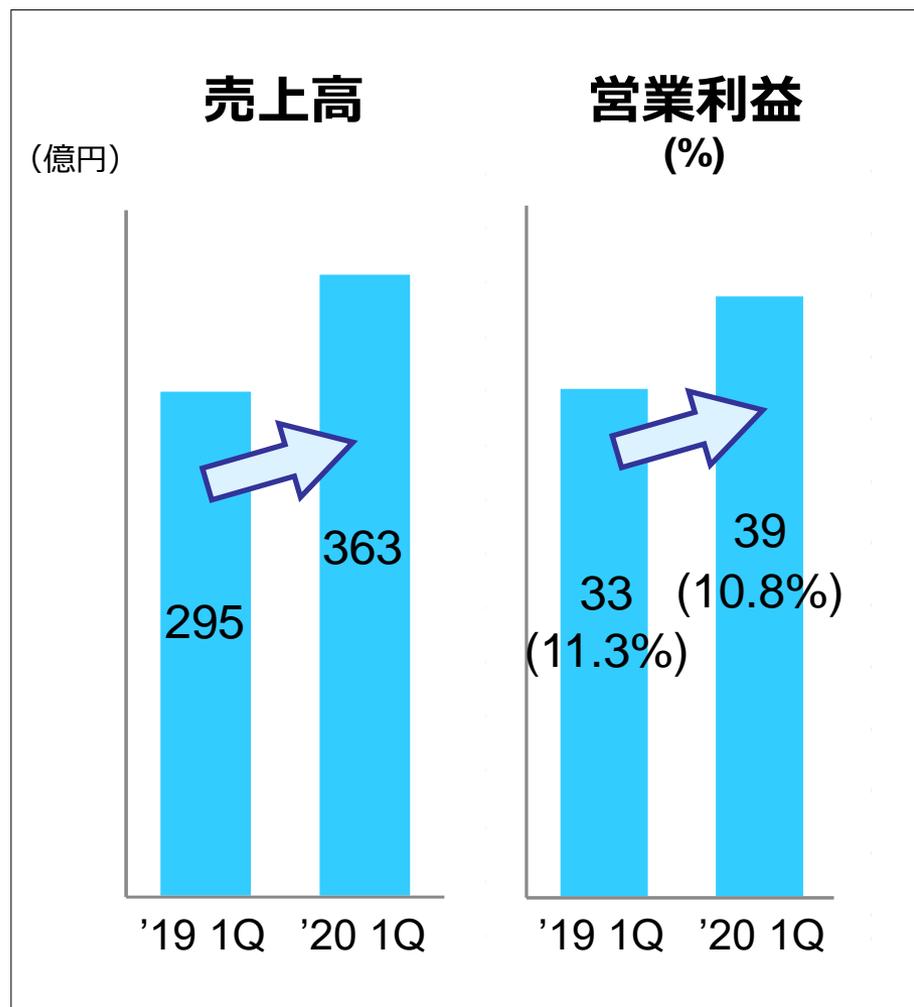
決算概要 セグメント別

(億円)

	売上高		営業利益		
	2019年度 1Q	2020年度 1Q	2019年度 1Q	2020年度 1Q	増減
フィルム・機能マテリアル	295	363	33	39	+6
モビリティ	117	68	3	▲ 7	▲ 10
生活・環境	307	229	9	3	▲ 5
ライフサイエンス	60	63	9	10	+1
不動産・その他	29	31	6	5	▲ 1
消去・全社	-	-	▲ 8	▲ 7	+1
合計	808	755	52	44	▲ 9

※2020年4月1日より組織改正を実施し、セグメント区分を変更しています (p.24参照)

フィルム・機能マテリアル



● 包装用フィルム

- ・巣ごもり特需と、環境意識の高まりにより、出荷堅調

● 工業用フィルム

- ・液晶偏光子保護フィルム
“コスモシャインSRF”は、大型テレビ向けを中心に拡販
- ・セラコン用離型フィルム“コスモピール”は、車載用途で生産調整の影響あり

● 機能マテリアル

- ・工業用接着剤“バイロン”、ポリオレフィン用接着性付与剤“ハードレン”は、自動車向け苦戦

フィルム・機能マテリアル トピックス

“コスモシャインSRF”

- ・2020年度1Qは、約20%増収
- ・2020年7月より新機台が量産開始。
生産能力約1.5倍に
- ・非吸湿性、耐久性に優れることから、
シェア拡大

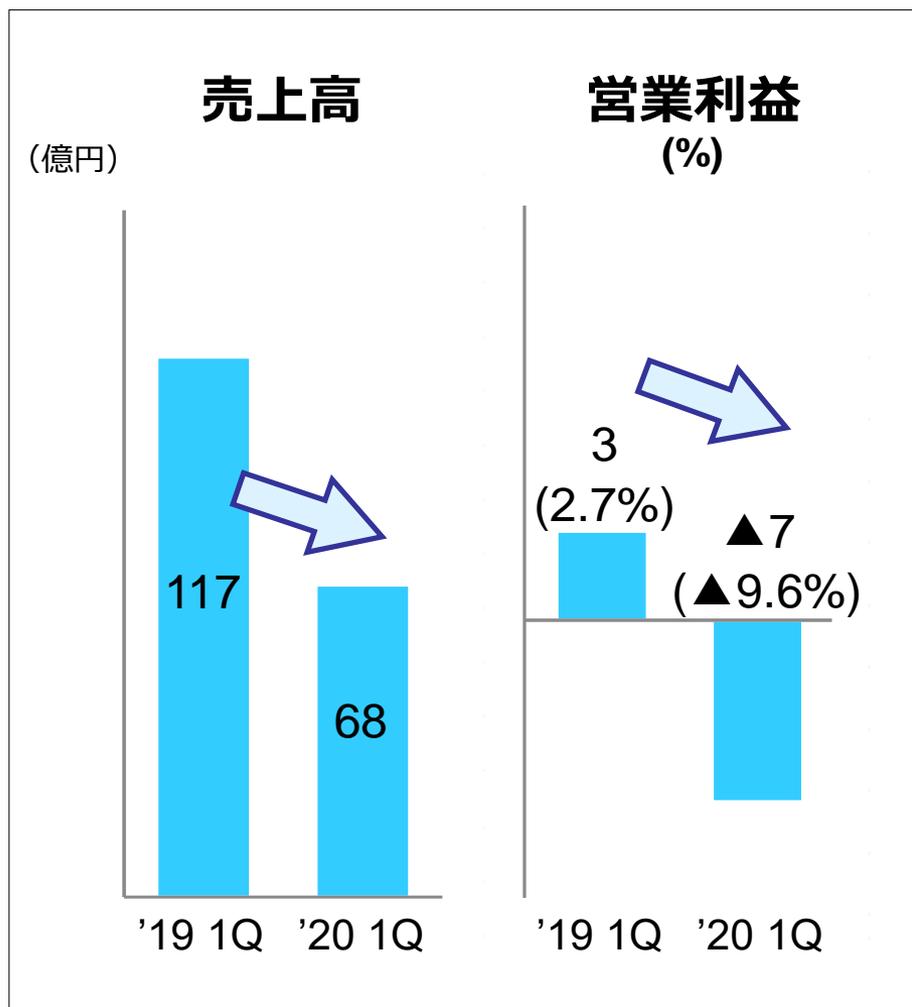


環境に配慮した包装用フィルム

- ・リサイクル樹脂使用比率80%のフィルム“サイクルクリーン”、
従来の1/2厚みの飲料ラベル用フィルム“スペースクリーン”など
- ・2020年度1Qは約4%増収。
包装用フィルムに占める
割合は約18%に



モビリティ



● エアバッグ用基布

- ・自動車減産の影響などにより、米国・タイの販売が大幅に落ち込む

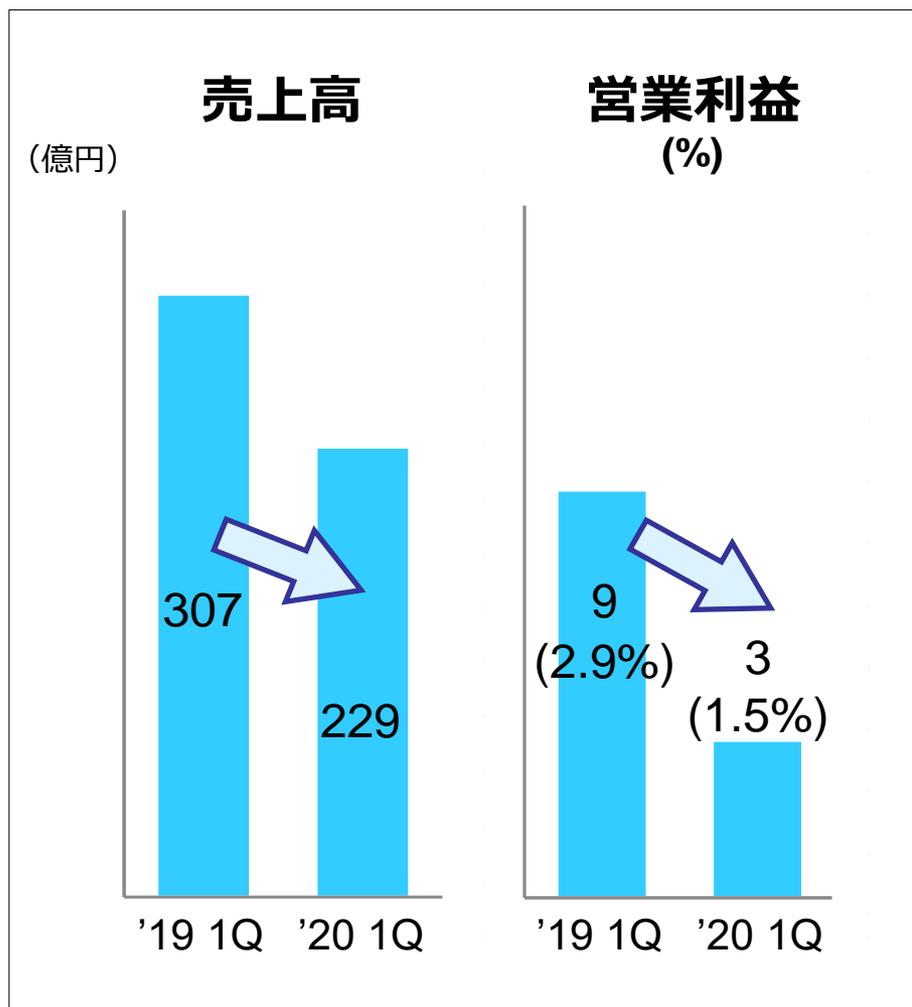
● エンジニアリングプラスチック

- ・自動車減産の影響あり

● モビリティ・ソリューション

- ・新しい移動空間の創出をめざし、全社横断でマーケティング活動開始

生活・環境



● 環境ソリューション

- ・VOC処理装置・エレメントは、企業活動の停滞で、出荷に遅れ

● 不織布

- ・自動車向けのスパンボンド、および事務機器向けのフィルターが苦戦

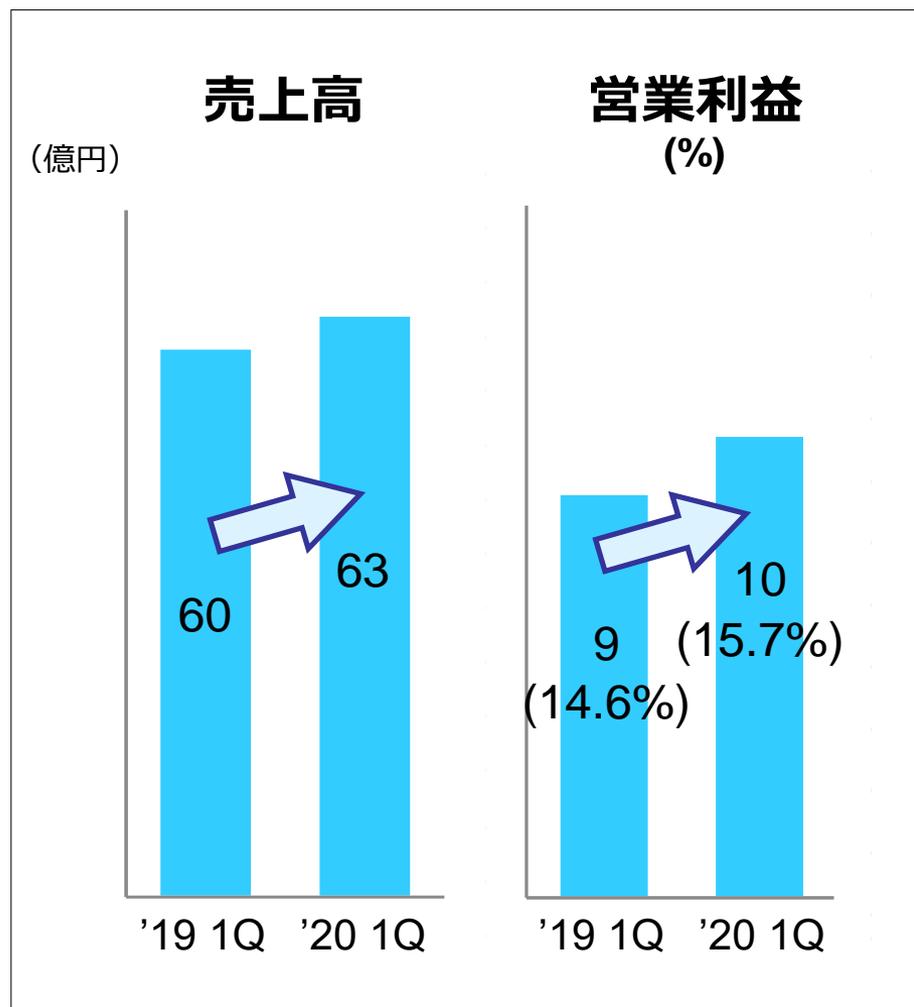
● 繊維機能材

- ・衛材用のポリエステル短繊維、寝具向け“プレスエア”は、堅調
- ・“ツヌーガ”は、工場向け手袋の需要が減少

● 衣料繊維

- ・店頭販売の不振により、受注大幅減

ライフサイエンス



● バイオ

- ・新型コロナウイルス感染症拡大を受け、遺伝子検査薬原料、研究用試薬が販売を大きく伸ばす
- ・生化学診断薬用原料、一般検査の需要足踏み

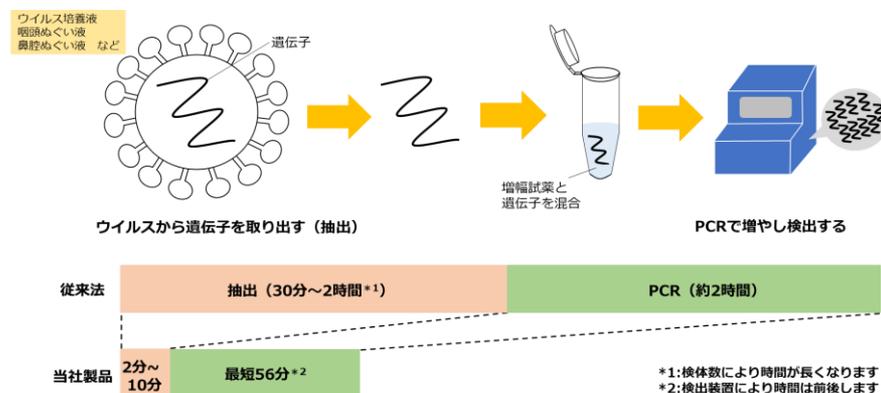
● メディカル

- ・医療機器は、“ナーブリッジ”などが伸び悩む
- ・医用膜は、血液透析膜、血液透析濾過膜の出荷が堅調

ライフサイエンス トピックス

遺伝子検査用試薬・キット

- PCR検査による新型コロナウイルス検出キット
 - ・だ液を検体とし、最短60分強で検出・測定が可能
 - ・公的医療保険の適用対象に（6月2日付）



- 全自動遺伝子解析装置“GENECUBE”専用の新型コロナウイルス遺伝子検査試薬
 - ・試料と試薬の混合から増幅・検出まで自動
 - ・検査者の作業負担の軽減、感染リスクの低減
 - ・製造販売承認を取得（7月2日付）



新型コロナウイルス感染症に対して

従業員とその家族の「安全」「健康」を最優先し、社会を、会社を守ることを第一としています。

また、保有する製品・サービスの提供を通じた貢献に積極的に取り組んでいます。

従業員

- ・ 感染予防対策、感染者発生時対策を徹底
- ・ 在宅勤務や時差出勤を推奨
- ・ 当面、出勤率3割以下（本支社）

工場・ 生産活動

- ・ 機動的な在庫・生産調整
- ・ BCPを見直した上で、稼働

財務

- ・ 手元資金を確保。現預金344億円（対前年度末92億円増）
- ・ OC100 (Overcome Corona 100)活動
不急のキャッシュアウトの時期見直し、在庫の削減
- ・ コミットメントライン 借入未実行残高175億円

事業での 貢献

- ・ PCR検査用試薬・キットの開発・生産・販売、自治体へ寄贈
 - ・ フィルター、マスク材料、および医療用フェイスシールド材料の生産・販売
 - ・ エアバッグ用基布を活用した防護服を自治体へ寄贈
-



Ⅱ. 2020年度業績見通し

2020年度業績見通し

(億円)

	2019年度	2020年度	増減	
売上高	3,396	3,300	▲96	▲2.8%
営業利益	228	200	▲28	▲12.3%
(率)	6.7%	6.1%	-	-
経常利益	180	140	▲40	▲22.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	138	70	▲68	▲49.2%
EPS (円)	155.1	78.8	-	-
減価償却費	170	188	+18	+10.6%
設備投資	364	265	▲99	▲27.3%

為替レート (円/US\$)

109

108

国産ナフサ価格 (千円/kl)

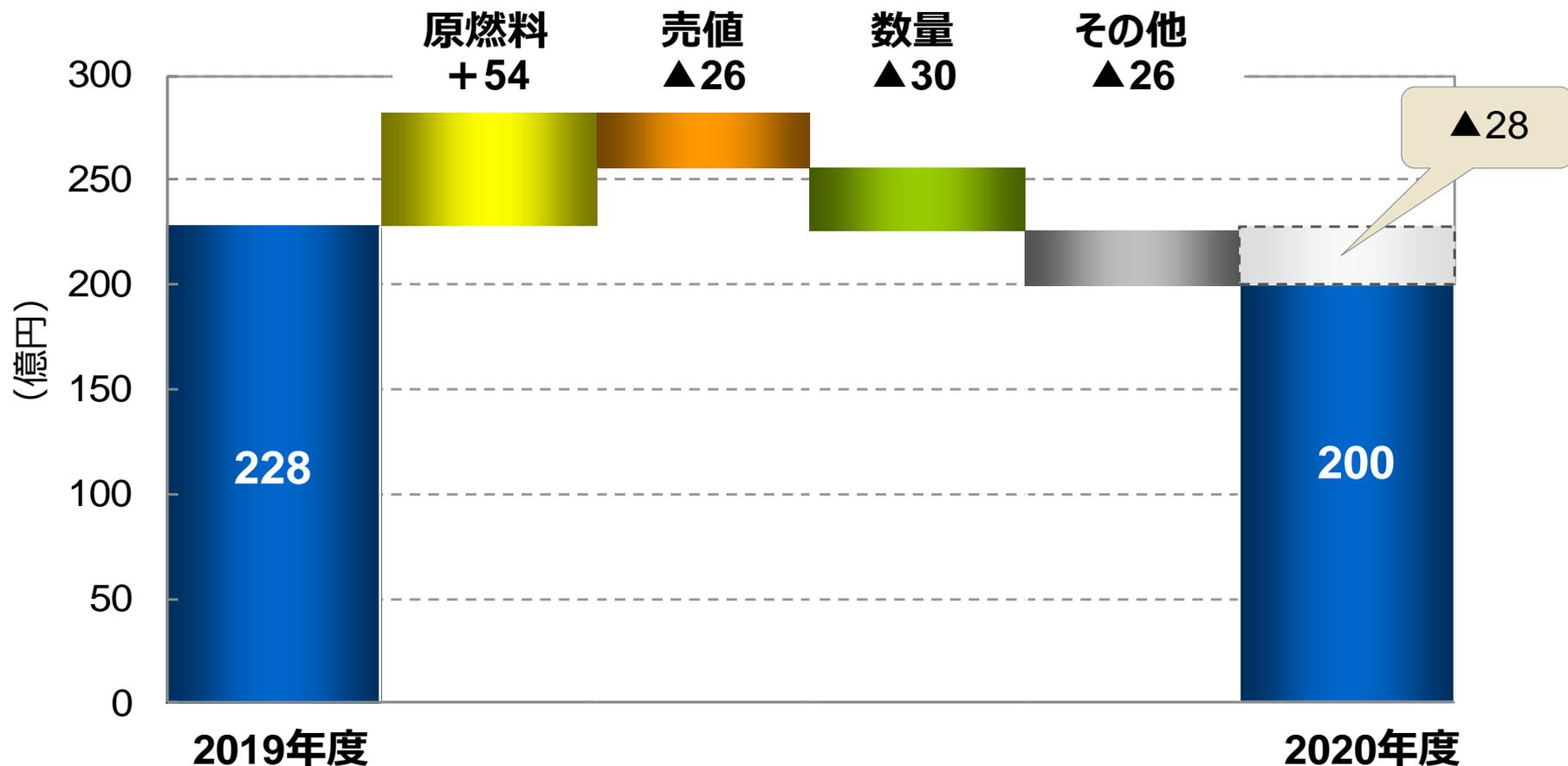
43

32

見通しの前提条件

- (1) 景気見通し：
 - ①新型コロナウイルス感染症 2Q末にはピークアウト
 - ②景気は、3Q以降 緩やかに回復（国・地域でバラツキ）
- (2) 自動車生産：1Qがボトム。2Qから緩やかな回復基調
→当社グループ自動車関連：前年比約 30 %減
- (3) 衣料消費：1Qボトムも、回復の足取りは鈍い
→当社グループ衣料繊維関連：前年比約 30 %減
- (4) 原燃料動向：世界景気ボトムアウトに沿い、若干値戻しへ

営業利益の増減要因



	2019年度	2020年度
為替レート (円/US\$)	109	108
国産ナフサ (千円/kl)	43	32

セグメント別見通し

(億円)

	売上高		営業利益		
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	増減
	実績	見通し	実績	見通し	
フィルム・機能マテリアル	1,250	1,520	145	159	+14
モビリティ	465	330	▲ 6	▲ 20	▲ 14
生活・環境	1,280	1,030	59	34	▲ 25
ライフサイエンス	255	280	38	40	+2
不動産・その他	146	140	26	21	▲ 5
消去・全社	-	-	▲ 34	▲ 34	+0
合計	3,396	3,300	228	200	▲ 28

ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社



All Rights Reserved

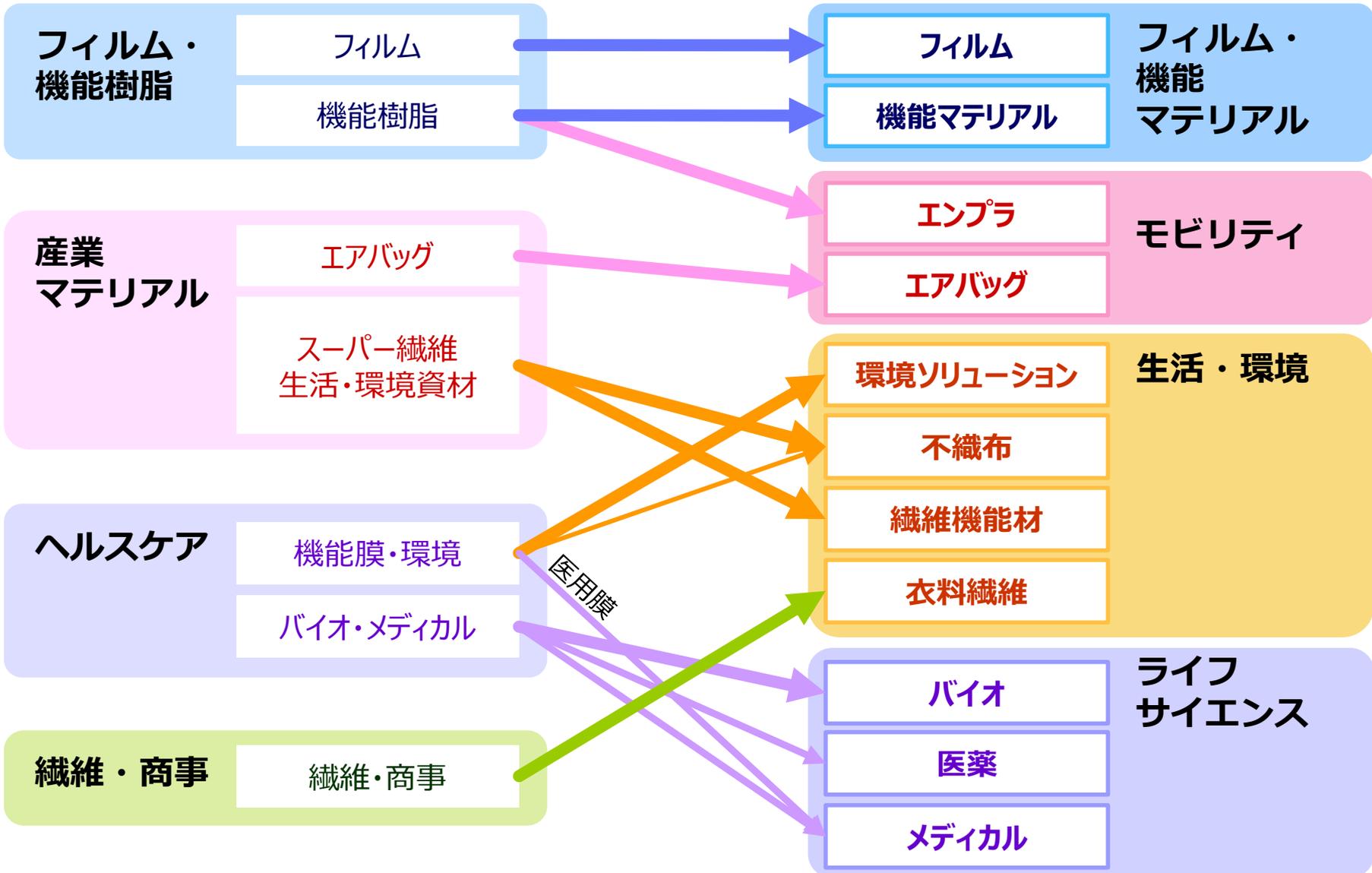


補足

ソリューション型の組織運営へ

2019年度

2020年度～



マテリアリティの特定

マテリアリティの前提となる基本事項

コーポレート・ガバナンス

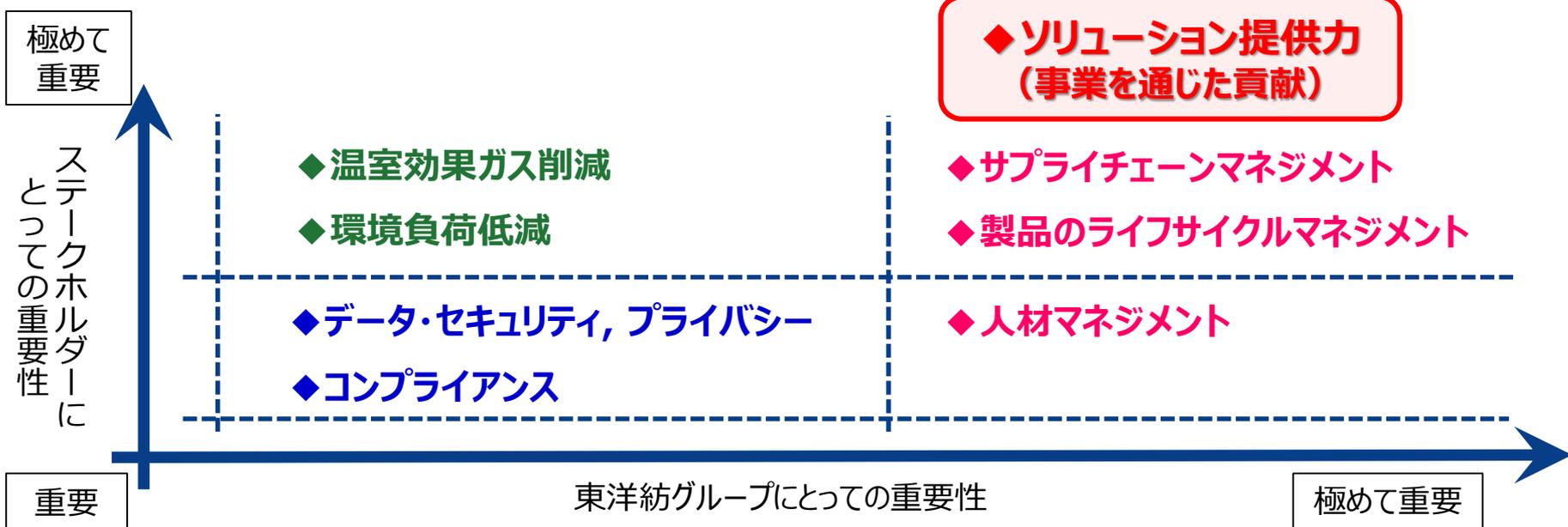
人権の尊重

安全・防災・品質

「人と地球に求められるソリューション」を創造し続けるグループ

未来への責任に基づくイノベーション：

「クリーンテクノロジー」「高いQoL」「新しい移動空間」の実現



ステークホルダー・コミュニケーション

環境課題への取り組み

● 環境配慮製品の統一ブランド “エコパートナーシステム”

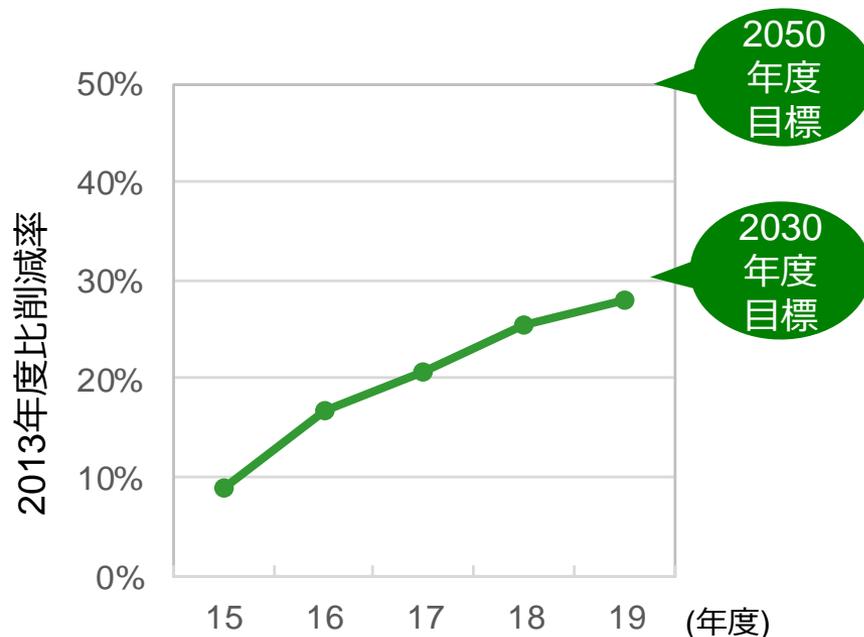
目標としていた売上高比率30%を、2019年度に達成。今後、更なる目標を立てたブランド展開へ



※東洋紡(株)単体での集計結果です。

● CO₂排出量の削減

目標は、2013年度比で2030年度に30%・2050年度に80%削減。
2019年度は28.1%削減

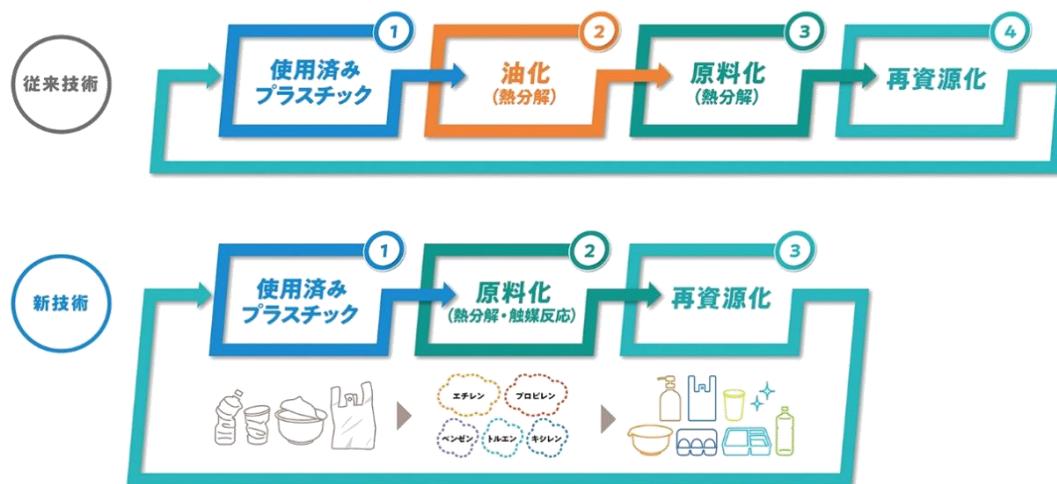


敦賀事業所
ガスコージェネレーション

環境課題への取り組み

● 「株式会社アールプラスジャパン」 設立

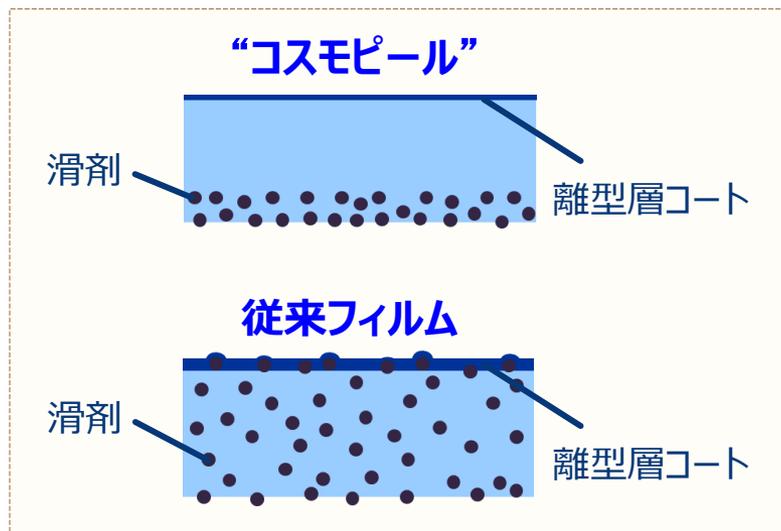
- 使用済みプラスチックの再資源化事業に取り組む新会社
(2020年6月～)
- プラスチックバリューチェーンを構成する12社による共同出資
(サントリー-MONOZUKURIEキスパート(株)、レンゴー(株)、東洋紡(株) 他)
- 米国アネロテック社とともに、効率的な再資源化技術を開発
- 従来必要な油化工程を経ずに、直接原料(ベンゼンなど)を生成可能。
CO2排出量、エネルギー消費量の少ないケミカルリサイクル



ソリューション提供力 フィルム事業

● セラコン用離型フィルム “コスモピール”

- ・2020年度1Qは約5%増収
- ・車載用途の生産調整の影響あり
- ・2020年6月 新加工設備が本格稼働。生産能力約2倍に
- ・2021年度 ハイエンド品のシェア30%をめざす



● 透明蒸着フィルム “エコシール”

- ・2019年11月、インドネシアTRIAS社との合併会社にて生産を開始
- ・透明蒸着フィルム市場*で、シェア11%
- ・透明で優れたバリア性、電子レンジ使用可
- ・食品包装用フィルムの国内外での販売拡大へ

※バリアフィルム全体の市場の約1.5%



ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社



All Rights Reserved